

上サロベツ自然再生協議会が開催されました！！

上サロベツ自然再生協議会（以下、「協議会」という）は、主として豊富町地内の国立公園のサロベツ湿原の自然再生を行うことを目的に、第1回は平成17年1月19日（水）、第2回は平成17年6月29日（水）に開催されました。

協議会は、特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク、豊富町、環境省自然環境局西北北海道地区自然保護事務所、北海道開発局稚内開発建設部の4者の呼びかけによって、個人会員31名、団体14団体、関係行政機関9機関、その他関係機関5団体の計59名で構成されています。

第1回協議会の開催要旨

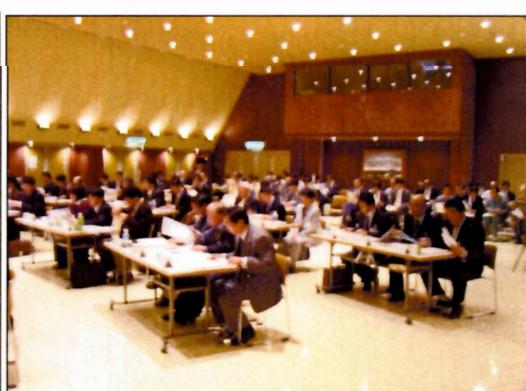
第1回上サロベツ自然再生協議会 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - 1) (仮称)上サロベツ自然再生協議会の設立
 - ・協議会設立について(設立趣旨・規約・運営細則、会員)
 - ・会長及び会長代理選任
 - ・会長挨拶
 - 2) 上サロベツ自然再生全体構想策定の進め方
 - 3) 上サロベツ自然再生の取り組み経緯
4. その他
5. 閉会

第1回協議会は、工藤豊富町長の開会挨拶で始まり、協議会設立のための協議会規約・協議会運営細則の採決と協議会会長及び会長代理の選任が行われ、第2回協議会以降に議論される「上サロベツ自然再生全体構想（以下、「全体構想」という）策定の進め方」の協議と「上サロベツ自然再生の取り組み経緯」について、関係機関から報告が行われました。



〈工藤町長の開会挨拶〉



〈会場の様子〉

サロベツ再生通信

7号
2005.
8.31

発行元

サロベツ再生促進協議会
事務局 豊富町農政課
Tel ○一六二一八二一一〇〇一

北海道開発局 農業水産部農業調査課
環境省自然環境局 西北海道地区自然保護事務所
稚内開発建設部農業開発課
稚内自然保護官事務所



●工藤栄光豊富町長挨拶

サロベツ湿原とともに暮らすこの地域を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。本日、ここに50を越える個人、あるいは団体の皆様方、そして関係機関のご参加をいただいて仮称ではありますけれども、第1回の上サロベツ自然再生協議会が開催されますことを心から感謝を申し上げますとともに、ご出席いただきました皆様方の遠方よりのご参加に対して、これまた心から御礼を申し上げたいと思います。

本町のサロベツ湿原は、低平地の湿原としては日本最大の高層湿原を有しております。また、稚咲内海岸砂丘帯の砂丘林と長沼湖沼群、そして豊かな生き物を育むペンケ沼周辺の低層湿原の3つの地域が自然環境保全の対象として最も重要であるということから、昭和49年に利尻・礼文・サロベツ国立公園として昇格をさせていただきました。その後専門家の方々、訪れる皆様方の声からも、このサロベツ湿原は世界的にも大変貴重な財産であるということを地元としても認識をさせていただいているところであります。

また、近年は、ご存知のようにラムサール国際条約登録湿地を現在の13箇所から22箇所まで拡大しようということで進められていますけれども、この登録候補地ということで注目されているところであります。これまた、地元として大変誇りに感じているところであります。

そして、何よりも広大なこのサロベツ原野で生産された豊富牛乳を中心とした酪農振興と、年間30万人を超える観光客を受け入れしている観光産業の振興など、様々な分野においてこのサロベツ湿原から多くの恩恵を受けていると地元として感じているところであります。

しかしながら、近年地域経済活動の拡大などに伴いまして湿原が劣化してきており、その植生も変化がみられるようになってまいりました。そのため、環境省、農林水産省、北海道開発局をはじめ、関係者の皆様方のご努力によりまして、湿原の再生と農業の共生を図るための「サロベツ再生構想」が昨年まとめられ、同時に、自然再生事業の取り組みが展開されているところであります。

サロベツ湿原の保全、再生は、多様な主体による長期的な取り組みとなり、共通の認識を持った上で効率的に連携していく必要性から、本日、自然再生推進法に基づく、仮称上サロベツ自然再生協議会が設立される運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えない次第であります。

今後は、この協議会における活発なご議論を期待させていただきますとともに、参加者あるいは関係者の皆様の連携がこれまで以上に深められ、地域の総意による自然再生事業がさらに進展されることをご期待申し上げる次第でございます。

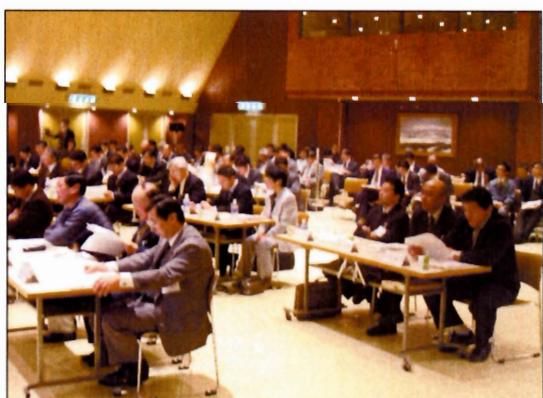
最後に、ご来場いただきました皆様方のご健勝、或いはご活躍をご祈念申し上げまして、お礼のご挨拶といたします。本日は誠にありがとうございます。

【第1回議事内容】

協議会会長には梅田安治北大名誉教授が、会長代理には辻井達一財団法人北海道環境財団理事長が選任されました。

全体構想策定の進め方ではワーキンググループ（以下、「WG」という）により、全体構想素案の作成作業を行うことで了承されました。

自然再生の取り組み経緯では、豊富町、特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク、環境省自然環境局西北海道地区自然保護事務所、北海道開発局稚内開発建設部の4機関から報告が行われました。



第2回協議会の開催要旨

第2回上サロベツ自然再生協議会 議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 事務報告
4. 議題
 - 1) 上サロベツ自然再生全体構想について
 - 2) 今後のスケジュールについて
 - 3) その他
5. 閉会

【事務報告】

- ・WGでの議論を経て、本協議会での審議を図ることを前回協議会にて承認
- ・第1回WG：井上代表を選出、素案の作成方法について討議
- ・第2回WG：素案の項目について討議
- ・第3回WG：素案文章の検討と修正、意見交換



【第2回協議会 議事内容】

- ・全体構想素案についてWG代表より説明がありました。
- ・全体構想（素案）は6章から構成され、第1章サロベツの特徴と自然再生に至る経緯、

第2章自然再生に至る経緯、第3章上サロベツ自然再生の目標、第4章目標を達成するための取り組み、第5章自然再生の推進に必要な事項、第6章自然再生協議会の役割分担及び構成、という骨子の説明と、各章ごとの概要説明と検討経緯について説明がありました。

【再生構想素案 主な説明内容】

- ・はじめに：地域住民の立場で表現しようというWGの意向から、地域を熟知し長年、上サロベツ地域で活動してきた元NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク代表の村元氏へ原案の作成をお願いし、WGで討議し、WG代表の責任で修正を加え、素案としている旨を説明しました。
- ・第1章から第5章まで議論され、第2回協議会で出された意見や協議会後の意見出しに基づいて、第4回以降のWG会議で上サロベツ自然再生全体構想（素案）の修正作業を進め、次回の協議会に上サロベツ自然再生全体構想（修正案）を提案することで、第2回協議会が終了しました。

○上サロベツ自然再生協議会のホームページを閲覧したい方は

豊富町のホームページ [<http://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/>]

の「上サロベツ自然再生協議会」をクリックして下さい。

○上サロベツ自然再生協議会は一般傍聴も出来ますので、興味のある方は是非一度会場に足を運んでいかがでしょうか。

上サロベツ自然再生協議会 構成員

■個人(31名)

氏 名	所 在 地
芦田 孝	旭川市
安達 昇一	札幌市
石田 哲也	札幌市
石渡 輝夫	札幌市
井上 京	札幌市
梅田 安治	札幌市
大井 かね子	豊富町
岡田 操	札幌市
小野寺 康浩	札幌市
清水 一	三笠市
下村 孝一	稚内市
鈴木 秀紀	札幌市
染井 順一郎	札幌市
高蓋 和朗	江別市
橋 治国	札幌市
田村 源治	札幌市
辻井 達一	札幌市
畑地 文雄	豊富町
出島 長朔	砂川市
遠島 幸吉	稚内市
中津川 誠	愛知県
中村 和正	札幌市
中村 太士	札幌市
中山 隆治	東京都
西村 愛子	札幌市
林 靖二	稚内市
秀島 好昭	札幌市
富士田 裕子	札幌市
山田 雅仁	札幌市
山本 晋	稚内市
渡辺 大介	下川町

■団体(14団体)

団 体 名	代 表 者 名
アグリサポート宗谷	事務局長 西森 順之
エコディミー21	代表 金作 州敏
株式会社 日興ジオテック	代表取締役社長 佐藤 邦雄
さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
サロベツ農事連絡会議	議長 山本 寿昭
宗友会	会長 島 克利
大成建設株式会社 札幌支店	支店長 小林 得志
特定非営利活動法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	理事長 斎藤 麟四郎
特定非営利活動法人 地域自然情報ネットワーク	理事長 小泉 武栄
特定非営利活動法人 北海道巡回生態系保全機構	理事長 坂本 與市
豊富町商工会青年部	部長 佐藤 雄示
藤友会	会長 高木 哲朗
野外科学株式会社	取締役 大滝 一功
利尻礼文サロベツ国立公園パークボランティアの会	理事 佐藤 吉一

■関係行政機関(9機関)

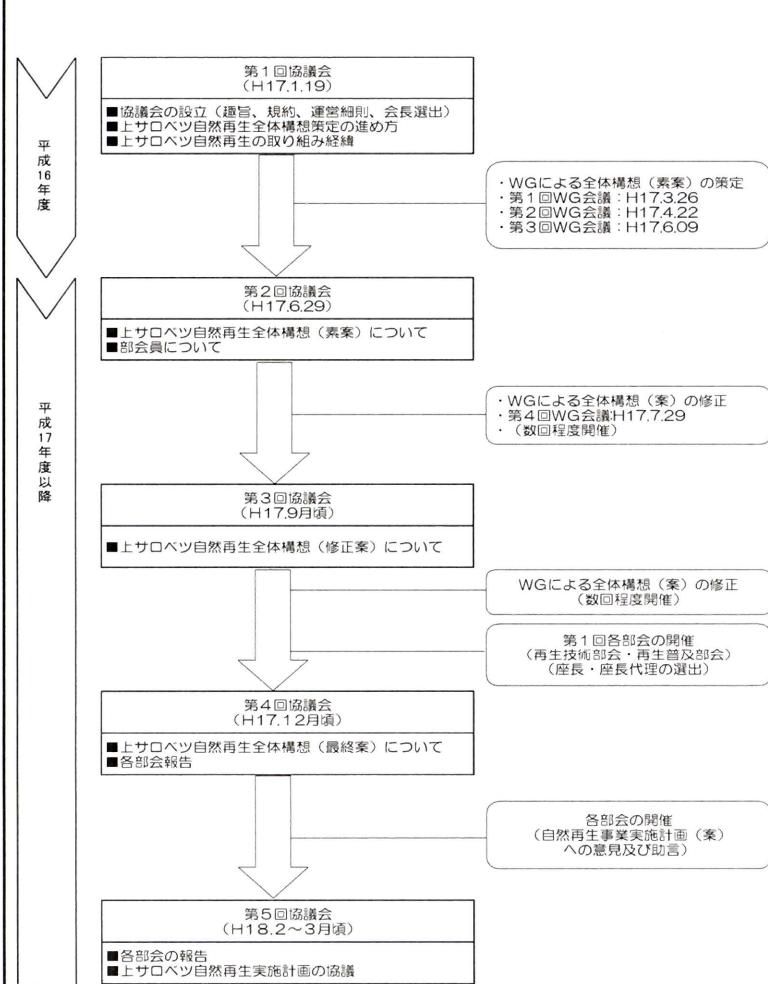
機 関 名	代 表 者 名
国土交通省 北海道開発局 稲内開発建設部	部長 川崎 博巳
国土交通省 北海道開発局 留萌開発建設部	部長 林 忠志
環境省 自然環境局 西北海道地区自然保護事務所	所長 青山 錦三
林野庁 北海道森林管理局	局長 亀井 俊悟
林野庁 北海道森林管理局 宗谷森林管理署	署長 竹中 三成
北海道 宗谷支厅	支庁長 日野 健一
北海道 宗谷支厅 稲内土木現集所	所長 神原 一雄
北海道 留萌支厅 留萌土木現集所	所長 宮木 康三
豊富町	町長 工藤 栄光

■その他関係機関(5団体)

(敬称略、五十音順)
北るもい漁業協同組合 代表理事組合長 今 隆
豊富町觀光協会 会長 松永 晃市
豊富町商工会 会長 木下 耕一
豊富町農業委員会 会長 内藤 孝信
豊富町農業協同組合 代表理事組合長 石川 岳志

上サロベツ自然再生協議会 構成員: 59名

上サロベツ自然再生協議会の今後のスケジュール(案)



自然と農業の共生を目指す豊富町の取り組み

地域・NPOと連携した取り組み

これまでに本通信で紹介してきたとおり、「サロベツ再生構想策定検討会」や「上サロベツ自然再生協議会」で「自然と農業の共生」を図るための手法について議論がなされてきており、本町としても、これらの取り組みを推進するために関係機関などと連携しながら取り組みを行っておりますので紹介いたします。



環境美化・自然観察会



農村体験

平成16年の取り組みでは、豊富町内の小学生を対象とした“環境美化・自然観察会”、“ビオトープのモニタリング”と“農村体験”を行いました。

「環境美化・自然観察会」では、サロベツ川をゴムボートで流下しながら周辺の自然観察を行うと共に河川の清掃活動を行いました。

「農村体験」では、基幹産業である酪農業を実際に体験してもらうことを目的として、給餌・清掃などを行った後に、生産された牛乳を使用し、アイスクリーム作りも体験しました。



ビオトープのモニタリング

「ビオトープ※のモニタリング」では、ビオトープを設置したことにより、農業用排水路に生息する動物相にどのような変化が現れるかを観察するため、設置前・設置後の生息種・個体数の比較を行いました。

また、本年度も春・夏・秋とモニタリングを行い、ビオトープの効果について検証を行う予定です。

※ビオトープとは？

近年ドイツで作られた言葉で『bio=生き物 + top=住むところ』という意味の造語です。

一般的には“人間が生活・活動する所で生物が生息できるところ”という意味で使用されます。

農業者と連携した取り組み

植樹活動は農業用排水路の植生回復及び環境負荷軽減を図る目的で平成16年11月に行われました。

当日は町内の農業者や関係機関の積極的な参加のもと1,000本の苗木を排水路周辺に植樹しました。

また、本年度は10月下旬から11月上旬にかけて実施する予定です。



植樹活動



農地・湿原研修

北海道内では本町以外にも農地と湿原が隣接して存在している地域があり、なかでも北海道内有数の酪農地帯でありサロベツ湿原に次ぐ湿原面積を有している浜中町に協力を依頼し、平成16年11月に「農地・湿原視察研修会」を開催しました。

視察研修会では、浜中町霧多布湿原で活動するNPO法人霧多布湿原トラストや、地域の農業者が主体となってビオトープの創造に取り組んでいる「緑の回廊」についての説明と併せて意見交換会が開催され参加者にとっては貴重な体験となりました。



先進事例紹介

農地の維持と湿原の保全再生について、より理解を深めるべく、長年本町の泥炭地の研究をされている北海道大学大学院井上助教授にご講義をお願いし、豊富町農業者及び関係機関が参加し、勉強会を行いました。

勉強会の中では、「サロベツ泥炭地及び泥炭農地の特徴や課題について」のご講義を頂いたあと、日頃抱えている疑問や将来の展望について質問するなど活発な意見交換が行われました。



勉強会

これらの取り組みは本年度も開催する予定であり、開催前には広報誌などでお知らせ致しますので皆様方の参加をお願い致します。

問い合わせ先 豊富町役場 農政課 農村整備係
TEL 0162-82-1001(内線233,234) FAX 0162-82-2806
E-mail nouseika@town.toyotomi.hokkaido.jp